

学会でダイバーシティ対応力を磨こう



辻 早希子

(株)三菱総合研究所 経営コンサルティング本部
[100-8141] 東京都千代田区永田町2-10-3
研究員, 博士(工学).
専門は素材に関する事業戦略コンサルティング.
s-tsujim@mri.co.jp
www.mri.co.jp/

1. 学会は多様な人材の宝庫

読者の皆さんは、学会活動を楽しんでいるだろうか。毎日の長時間に及ぶ研究・開発と学会前の発表準備で、学会会場に到着する頃には疲労困憊になっていたり、学会期間中もいつもの研究室の仲間とばかり過ごしていたりしていないだろうか。

学会は、特定の分野の専門家が議論を深める場であるから、世間一般に存在する組織と比べれば尖った組織と捉えられがちである。しかし、分野ではなく、そこに集う人のバックグラウンドに目を向ければ、実に多様性に富んだ組織だと思う。年次会や討論会では、性別はおろか年齢、所属、国籍のさまざまな研究者と利害関係なしに議論をすることができる。普段、読み込んでいる論文のあこがれの筆者や初対面の研究者と、会ったその日に深い話をするすることができる。若手の皆さんにとって、学会に参加するおもな目的はもちろん、日頃の研究成果を披露して検討を深め、研究開発に磨きをかけることだと思うが、同時にそのダイバーシティに目を向けて、さまざまな人とより積極的にかかわることをすすめたい。

2. 人との出会いがチャンスにつながる

筆者は学生時代に参加した学会に関して忘れられないエピソードがある。日本で開催されたある国際会議にポスター発表で参加したときのことである。発表を終えた後、海外からの招待講演者のエクスカースョンに同行し、ホスト側の支援を行った。好奇心旺盛な海外の先生方から、日本の文化や歴史について矢のように鋭い質問を受け、冷や汗をかきつつ、その場にいた他大学の学生たちと協力し、もてなした経験がある。そのときは満足に質問に答えられなかったかもしれないし、英語もたどたどしかったと思うが、一生懸命さが伝わったのだろう。一人の先生が、「君たちのホスピタリティがうれしかった。学会の今年度の予算が少し余っているから、次年度開催される国際シンポジウムに招待してあげたい。もち帰って相談してみよう」と提案してくれたのだ。その後この提案は実現し、とて

も幸運なことに、次年度は参加費を支援していただき海外の国際シンポジウムに行くことができた。

当時学生だった筆者にとって、海外からの研究者をホストとしてもてなしたことが得難い経験だったが、新しい人との出会いを大切に、前向きに努力すれば次のチャンスが生まれるということも身をもって知った出来事であった。

3. コンサルティングという仕事

さて、学生時代は高分子微粒子の合成をしていた筆者だが、社会人になってからは微粒子や高分子そのものを対象とする研究から離れ、三菱総合研究所で事業戦略コンサルティングをしている。おもに手掛けている業務は素材などに関する事業の戦略策定や新事業立ち上げ支援であり、製造業の研究企画の方々を応援する立場で奔走している。プロジェクトごとに社内の適任者からなるチームを組み、顧客と議論を重ねる仕事である。成果を出すためにはさまざまな人との連携が欠かせず、学生時代、多様な人と出会った経験が活かしていると思う。

私事では現在、第二子の育児休業中である。三菱総合研究所には出産・育児・介護に関する休暇のほか、短時間フレックス勤務、在宅勤務、ベビーシッター補助など、ライフイベントに応じて活用できる制度が整っており、筆者自身、第一子出産後は、産休・育休に加えて短時間勤務や在宅勤務制度のお蔭で仕事を続けることができた。ただ、実際には活用できる会社の制度があることに加えて、保育園、家族と親族、職場の上司と同僚、プロジェクトでかかわる社外のさまざまな方の理解と協力がなければ仕事と育児を両立することは不可能だった。やはり、人との出会いやかかわり方が鍵を握っていると感じている。

多様な人と議論したり協力して何かをやり遂げる経験は、コンサルティングに限らずどのような仕事をするうえでも必ず生きてくる。若手の皆さん、ぜひ、学会活動を通じて新しい人と出会い、ダイバーシティ対応力を鍛えてみませんか。